

ピリピ人への書

第一章

一 キリスト・イエスの僕たる我ら、パウロとテモテと、書をピリピにをるキリスト・イエスに在る
 二 凡ての聖徒および監督たちと執事たちとに贈る。 願くは我らの父なる神および主イエス・キリス
 トより賜ふ恩恵と平安と、汝らに在らんことを。

五四三

三 われ汝らを憶ふごとに、我が神に感謝し、 常に汝ら衆のために、願のつどつど喜びて願をなす。 是な
 六 んぢら初の日より今に至るまで福音を弘むることに與るが故なり。 我は汝らの衷に善き業を始め給ひし者の、

七

キリスト・イエスの日まで之を全うし給ふべきことを確信す。 七 わが斯くも汝ら衆を思ふは當然の事なり、我が
 縲綫にある時にも、福音を辯明して之を堅うする時にも、汝らは皆われと共に恩恵に與るによりて、我が心にあ

九八

ればなり。 八 我いかにキリスト・イエスの心をもて汝ら衆を戀ひ慕ふか、その證をなし給ふ者は神なり。 九 我は
 祈る、汝らの愛、知識ともろもろの悟とによりて彌が上にも増加はり、 一〇 善惡を辨へ知り、キリストの日に至る

二

まで潔よくして躓くことなく、 一 一 イエス・キリストによる義の果を充して、神の榮光と譽とを顯さん事を。
 一 二 兄弟よ、我はわが身にありし事の反つて福音の進歩の助となりしを汝らが知らんことを欲するなり。 一 三 即

一四

ち我が縲綫のキリストの爲なることは、近衛の全營にも、他の凡ての人にも顯れ、 一 四 かつ兄弟のうちの多くの者
 一 五 は、わが縲綫によりて主を信する心を厚くし、懼るる事なく、ますます勇みて神の言を語るに至れり。 一 五 或者は

イ 腓一・八、二・五、 三・三、八、一四、四 七、一九、二一 加 三・二六を見よ	ホ 徒一六・一二を見よ 徒九・二三を見よ 哥後一・一 (西一・ 二)	ヲ 腓一・七、二二、二六 二七、三三、三四、 三五、三五	見よ	ウ 腓一・六
ロ 羅一・一 加一・一〇 徒三〇・二八 提前 三・二、二多一・七等	ト 徒三〇・二八 提前 三・二、二多一・七等	ソ 腓一・二六	ツ 腓四・一	キ 雅三・一八を見よ ノ (路二二・二三) オ 腓一・七を見よ (提後二・九)
ハ 哥後一・一 西一・一 門一 (撒前一・一) 撒後一・一	チ 提前三・八一 一三 リ 羅一・七を見よ 又 羅一・八を見よ ル (羅一・九)	カ 徒二・四二 腓四・ 一五	ネ 羅一・一〇を見よ ナ 撒前三・一二 ラ (西一・九)	ク (徒二八・三〇) ヤ 腓一・二〇 哥後三 一、二、七、四 キ 徒四・三一 ケ (哥後一・二三)
ニ 徒一六・一を見よ	ル (羅一・九)	ヨ 哥前一・八を見よ 腓一・一〇、二二、二六	ム 羅二・一八	

一六 嫉妬と分争とによりて、キリストを宣傳へ、あるものは善き心によりて之を宣傳ふ。一六これは福音を辯明するた
 一七 めに我が立てられたることを知り、愛によりてキリストを宣べ、一七かれは我が縲綆に患難を加へんと思ひ、誠意
 一八 によらず、徒黨によりて之を宣ぶ。一八さらば如何ん、外貌にもあれ、眞にもあれ、孰も宣ぶる所はキリストなれ
 一九 ば、我これを喜ぶ、また之を喜ばん。一九そは此のこの汝らの祈とイエス・キリストの御靈の賜物とによりて我
 二〇 が救となるべきを知らばなり。二〇これは我が何事をも恥ぢずして、今も常のごとく聊かも臆することなく、生
 二一 くるにも死ぬるにも我が身によりて、キリストの崇められ給はんことを切に願ひ、また望むところに適へるなり。
 二二 我にとりて、生くるはキリストなり、死ぬるもまた益なり。二三されど若し肉體にて生くる事、わが勤勞の果と
 二三 なるならば、孰を選ぶべきか、我これを知らず。二三我はこの二つの間に介まれたり。わが願は世を去りてキリス
 二四 トと偕に居らんことなり、これ遙に勝るなり。二四されど我なほ肉體に留るは汝らの爲に必要なり。二五我これを
 二六 確信する故に、なほ存へて汝らの信仰の進歩と喜悅とのために汝等すべての者と偕に留らんことを知る。二六これ
 二七 は我が再び汝らに到ることにより、汝らキリスト・イエスに在りて我にかかはる誇を増さん爲なり。二七汝等ただ
 二八 キリストの福音に相應しく日を過せ、然らば我が往きて汝らを見るも、離れわて汝らの事をきくも、汝らが靈を
 二九 一つにして堅く立ち、心を一つにして福音の信仰のために共に戦ひ、二八凡ての事において逆ふ者に驚かされぬを
 三〇 知ることを得ん。その驚かされぬは、彼らには亡の兆、なんぢらには救の兆にて此は神より出づるなり。二九汝等
 三〇 はキリストのために常に彼を信する事のみならず、また彼のために苦しむ事をも賜りたればなり。三〇汝らが遭ふ

イ群一・七 ホ(哥後一・二一) リ(哥前六・二〇) カ約二・二六を見よ レ群一・五を見よ ナ群三
 ロ(哥前九・二七) ヘ徒一六・七を見よ ヌ群八・一九 ヨ群二・二四(門二二) ツ(弗四・一) ヲ群後一・五
 ハ群一・一三 ト群五・五 彼前四・ ル加二・二〇 ヲ群後五・一二を見よ ヲ(徒四・三二) ム徒一四・二二を見よ
 ニ群二・三 羅二・八 一六 ヲ群一・一三を見よ ツ(徒四・三二) ム徒一四・二二を見よ 一〇西一・二九
 を見よ 手羅一四・八を見よ ワ哥後五・八(書後四) (哥後七・四) 群二・ネ哥前一六・二三を見よ ウ(太五・一二) 二・二

ノ徒一六・一九一四〇
 非一・二三
 才哥後一三・一三
 ク西三・二二
 ヤ羅一・二・一六を見よ
 マ約三・二九を見よ
 ケ非一・二七 羅二・八
 ア哥後四・四を見よ
 ミ來一・二二
 サ(約五・一八、一〇・
 三三)
 三九 約一〇・一八
 キ哥後八・九を見よ
 羅五・一九
 エ太二〇・二八を見よ
 ヲ約一・一四 及び 羅
 ヒ太二八・一八を見よ
 徒二・三三 來二・九
 モ弟一・二二を見よ
 シ來五・八 (太二六・
 七 弟一・二〇を見よ
 三九 約一〇・一八
 三九 約一〇・一八
 ス羅一四・一一
 イ約一三・二三 及び
 羅一〇・九を見よ
 口(非一・五、四・一五)
 ハ哥後七・一五を見よ
 チ路一・六 非三・六
 二來五・九
 ホ弟一・五を見よ
 ヘ哥前二・六(哥前
 一五・一〇 羅二二
 ・三 來一三・二二)
 ト(哥前一〇・一〇)
 路一・六 非三・六
 リ徒二・四〇を見よ
 又(太五・四五 弟五・
 一四 太五・
 一四

戦闘は、曩に我の上に見しところ、今また我に就きて聞くところに同じ。

第二章

一 この故に若しキリストによる勸、愛による慰安、御靈の交際、また憐憫と慈悲とあらば、二なんぢら念を同じうし、愛を同じうし、心を合せ、思ふことを一つにして、我が喜びを充たしめよ。

三 何事にまれ、徒黨また虚榮のために爲な、おのおの謙遜をもて互に人を己に勝れりと爲よ。四 おのおの己が事のみを顧みず、人の事をも顧みよ。五 汝らキリスト・イエスの心を心とせよ。六 即ち彼は神の貌にて居給ひしが、神と等しくある事を固く保たんとは思はず、七 反つて己を空しうし僕の貌をとりて人の如くなれり。八 既に人の狀にて現れ、己を卑うして死に至るまで、十字架の死に至るまで順ひ給へり。九 この故に神は彼を高く上げて、之に諸般の名にまさる名を賜ひたり。一〇 これ天に在るもの、地に在るもの、地の下にあるもの、悉とくイエスの名によりて膝を屈め、二且もろもろの舌の『イエス・キリストは主なり』と言ひあらはして、榮光を父なる神に歸せん爲なり。

二三 されば我が愛する者よ、なんぢら常に服ひしごとく、我が居る時のみならず、我が居らぬ今もますます服ひ、畏れ戰きて己が救を全うせよ。二三 神は御意を成さんために汝らの衷にはたらき、汝等をして志望をたて、業を行はしめ給へばなり。二四 なんぢら咬かず、疑はずして凡ての事をおこなへ。二五 是なんぢら責むべき所なく素直にして此の曲れる邪惡なる時代に在りて神の瑕なき子とならん爲なり。汝らは生命の言を保ちて、世の光のごと

二六 此の時代に輝く。二六 斯て我が走りしところ、勞せしところ、空しからず、キリストの日に、われ誇ることを得ん。二七 さらば汝らの信仰の供物と祭とに加へて、我が血を灌ぐとも我は喜ばん、なんぢら衆と共に喜ばん。二八 斯く汝等もよろこべ、我とともに喜べ。

二九 われ汝らの事を知りて慰安を得んとて、速かにテモテを汝らに遣さんことを主イエスに頼りて望む。三〇 彼は彼のほかに我と同じ心をもて眞實に汝らのことを慮はかる者なければなり。三一 人は皆イエス・キリストの事を求めず、唯おのれの事のみを求む。三二 されどテモテの錬達なるは、汝らの知る所なり、即ち子の父に於ける如く我とともに福音のために勤めたり。三三 この故に我わが身の成行を見れば、直ちに彼を遣さんことを望む。三四 我もまた速かに往くべきを主によりて確信す。三五 されど今は先われと共に働き、共に戦ひし兄弟、すなはち汝らの使として我が窮乏を補ひしエパフロデトを汝らに遣すを必要のことと思ふ。三六 彼は汝等すべての者を戀ひしたひ、又おのが病みたることの汝らに聞えしを以て悲しみ居るに因りてなり。三七 彼は實に病にかかりて死ぬばかりなりしが、神は彼を憐みたまへり、昔に彼のみならず、我をも憐み、憂に憂を重ねしめ給はざりき。三八 この故に急ぎて彼を遣す、なんぢらが再び彼を見て喜ばん爲なり。又わが憂を少うせん爲なり。三九 されば汝ら主にありて歡喜を盡して彼を迎へ、かつ斯のごとき人を尊べ。四〇 彼は汝らが我を助くるに當り、汝らの居らぬを補はんとて、己が生命を賭け、キリストの事業のために死ぬばかりに爲りたればなり。

一 終に言はん、我が兄弟よ、なんぢら主に在りて喜べ。なんぢらに同じことを書きおくるは、我に

第三章

- イ(太二四・二七) ホ羅一五・一六を見よ
- ロ(加二・二を見よ) 提後四・六(民二八)
- ハ(加四・一一) 撒前三
- ニ(賽四九・四) へ西一・二四(哥後一)
- ニ(哥一・六を見よ) 二・二五
- ト(撒前五・一六)
- チ(哥一・一を見よ)
- リ(哥二・二三)
- ヌ(哥前二六・一〇) 提後三・一〇
- カ(哥一・二五)
- ル(哥前一〇・二四を見よ)
- ヨ(提後三・二)
- ヲ(哥前四・一七を見よ)
- タ(門二)
- レ(哥後八・二三(約一))
- 三(一六)
- ソ(哥四・一八)
- ツ(哥四・一八)
- ネ(羅一六・二)
- ウ(哥四・四)
- ラ(哥前一六・一七を見よ)
- ヨ(哥四・一〇)
- ム(徒二〇・二四)
- ウ(哥四・四)
- ナ(哥前一六・一八)
- (哥二・一八)

非詩三二・一六、二〇 ヤ羅二・二九を見よ 二徒三二・三を見よ (太五・四八)
黙三二・一五 (加五) (加六・一五) 徒三三・六 彼後一・三を見よ
ノ (哥後一一・一三) マ 哥後五・一六を見よ テ 徒八・三を見よ
オ (加五・二五) フ 哥後一一・二二 羅 弟三・九 ア 弟三・九
ク 羅一五・一七 (加六) キ 路一四・三三 ミ 羅九・三〇を見よ
・一四) コ 羅一一・一 ユ 約一七・三 弟四・シ (羅六・五) 提前六・二、一九
イ 哥前一三・一〇
ロ 提前六・二、一九
ハ (徒九・五、六)
ニ (路九・六二)
ホ 哥前九・二四
ヘ 羅一一・二九を見よ
ト 哥前二・六を見よ

煩はしきことなく、汝等には安然なり。

三二 ニなんぢらいぬこころに心せよ、悪しきはたらまじと勞動人に心せよ、肉の割禮かつらいある者ものに心せよ。三神の御靈みたまによりて禮拜らいはいをな

四 し、キリスト・イエスによりて誇り、肉にくを恃たのまぬ我われらは眞まことの割禮かつらいある者ものなり。四されど我われは肉にくにも恃たのむことを得

五 るなり。もし他ほかの人ひと、肉にくに恃たのむ所ところありと思はば、我われは更に恃たのむ所ところあり。五我われは八日やうかめに割禮かつらいを受けたる者ものにし

て、イスラエルの血統ちすぢ、ベニヤミンの族やから、ヘブル人びとより出でたるヘブル人びとなり。律法おきてに就きてはパリサイ人びと、

七六 熱心ねっしんにつきては教會けうかいを迫害はくがいしたるもの、律法おきてによれる義ぎに就きては責むべき所ところなかりし者ものなり。七されど曩むかしに

八 我われが益えきたりし事ことはキリストのために損そんと思ふに至いたり。八然しかり、我われはわが主しゆキリスト・イエスを知ることことの優すぐれ

九 たるために、凡すべての物ものを損そんなりと思ひ、彼かれのために既に凡すべての物ものを損そんせしが、之これを塵芥ちんがいのごとく思ふ。九これキ

リストを獲え、かつ律法おきてによる己おのが義ぎならで、唯ただキリストを信しんずる信仰しんかうによる義ぎ、すなはち信仰しんかうに基もとづきて神かみより賜たまは

一〇 る義ぎを保たもち、キリストに在あるを認まめられ、一〇キリストとその復活よみがへりの力ちからを知しり、又またその死しに效ならして彼かれの苦難くるしみにあ

一一 づかり、一一如何いかにもして死人しにんの中うちより甦よみがへることを得えんが爲ためなり。一一われ既に取とれり、既に全まったうせられたりと言いふ

一二 にあらず、唯ただこれを捉とらへんとて追求おひもとむ。キリストは之これを得えさせんとて我われを捉とらへたまへり。一二兄弟あやうだいよ、われは既に

一三 捉とらへたりと思おもはず、唯ただこの一事いちじを務つとむ、即すなはち後うしろのものを忘わすれ、前まへのものに向むかひて勵はげみ、一四 標準めあてを指さして進すすみ、神かみ

一五 のキリスト・イエスに由よりて上うへに召めしたまふ召めしにかかはる褒美ほうびを得えんとて之これを追求おひもとむ。一五されば我等われらのうち成人せいじん

したる者は、みな斯のごとき思を懐くべし、汝等もし何事にて異なる思を懐き居らば、神これをも示し給は

一六 ン。一六 ただ我等はその至れる所に随ひて歩むべし。

一七 兄弟よ、なんぢら諸共に我に效ふものとなれ、且なんぢらの模範となる我らに循ひて歩むものを視よ。

一八 一八そは我しばしば汝らに告げ、今また涙を流して告ぐる如く、キリストの十字架に敵して歩む者おほければな

一九 一〇九 彼らの終は滅亡なり。おのが腹を神となし、己が恥を光榮となし、ただ地の事のみを念ふ。二〇されど我ら

二一 二の國籍は天に在り、我らは主イエス・キリストの救主として其の處より來りたまふを待つ。二二 彼は萬物を己に

服はせ得る能力によりて、我らの卑しき狀の體を化へて己が榮光の體に象らせ給はん。

第四章

一 この故に我が愛するところ、慕ふところの兄弟、われの喜悦、われの冠冕たる愛する者よ、斯のごとく主にありて堅く立て。

三二 二 我ユウオデヤに勧め、セントケに勧む、主にありて心を同じうせんことを。三 また眞實に我と軛を共に

する者よ、なんぢに求む。この二人の女を助けよ、彼らはクレメンヌ其のほか生命の書に名を録されたる我が

同勞者と同じく、福音のために我とともに勧めたり。

四 汝ら常に主にありて喜べ、我また言ふ、なんぢら喜べ。五 凡ての人に汝らの寛容を知らしめよ、主は近

し。六 何事をも思ひ煩ふな、ただ事ごとに祈をなし、願をなし、感謝して汝らの求を神に告げよ。七 さらば凡て

七六 五四

イ(加五・一〇) ハ(徒三〇・三二) ナ(西三・二 羅八・五、レ 哥前一五・四三—五 才 撒前五・一六 五(提前二・二)

ロ(約六・四五 弗一、ト(加六・二四) 六(三) ラ 哥前一六・一三を見 ク 雅三・二七 ヤ 來一〇・三七 雅五

一七 撒前四・九 ナ(哥後二・一—三) ヲ 弗二・一九を見 ヲ 哥前一五・四三 ム 腓二・二を見 ム 八、九(哥前一六、

ハ 加六・一六 リ 猶一〇 ヲ 西三・二) ヲ 哥前一五・四九 ウ 路一〇・二〇を見 ム 二二) マ 太六・二五を見

ニ 哥前四・一六を見 ム 羅一六・一八(多一 カ 哥前一七を見 ヲ 羅八・二九 西三、井 腓二・二五を見 ム 太六・二五を見

ホ 腓四・九) ム 二二) ヲ 哥前一五・二八 ヲ 四 ヲ 井 腓三・一 ケ 弗六・一八 提前五

本 彼前五・三を見 ム 羅六・二二 猶一三 タ 弗一・一九を見 ム ネ 腓一・八

フ(弗三・一九) テ彼前一・五 ユ(哥後二・一九及びシ(哥後二・一九) 撒前二・一八
 察二六・三 勝四・九 ア(紀一四・一八 彼前 勝二・三〇) 王(哥後二・二・九 提前 七(多三・一四)
 約一四・二七を見よ 二(二・二二) 提前六・六、八 來一 一(二・二二)を見よ 八(哥後九・五 哥前 へ(哥後九・八)
 西三・一五 サ(勝三・一七)を見よ 三・五(哥後九・八) と(哥後一・七) 來一〇 イ徒一七・一を見よ 九(一・一、二) 哥前
 エ(哥後一〇・五) キ(羅一五・三三)を見よ ミ(哥前四・一一)を見よ 三(三三) 徒(撒前二・九) 勝二・二五
 本(哥後二・一四)を見よ 又(加一・四)を見よ
 一(來一三・一六) ト(哥後九・八) チ(羅二・四)を見よ
 リ(羅一・三六)を見よ

人の思にすぐる神の平安は汝らの心と思とをキリスト・イエスによりて守らん。

八 終に言はん兄弟よ、凡そ眞なること、凡そ尊ぶべきこと、凡そ正しきこと、凡そ潔よきこと、凡そ愛すべ

九 きこと、凡そ令聞あること、如何なる徳、いかなる譽にても汝等これを念へ。九なんぢら我に學びしところ、受

けしところ、聞きしところ、見し所を皆おこなへ、然らば平和の神、なんぢらと偕に在さん。

一〇 汝らが我を思ふ心の今また萌したるを、われ主にありて甚く喜ぶ。汝らは固より我を思ひわたるなれど、

二 機を得ざりしなり。二 われ窮乏によりて之を言ふにあらず、我は如何なる狀に居るとも、足ることを學びたれば

三 なり。三 我は卑賤に在る道を知り、富に在る道を知る。また飽くことにも、飢うることに、富むことに、

四 乏しき事にも、一切の秘訣を得たり。三 我を強くし給ふ者によりて、凡ての事をなし得るなり。四 されど汝らが

五 我が患難に與りしは善き事なり。一五 ピリピ人よ、汝らも知る、わが汝らに福音を傳ふる始、マケドニヤを離れ去

六 るとき授受して我が事に與りしは、汝等のみにして他の教會には無かりき。一六 汝らは我がテサロニケに居りし時

七 に、一度ならず二度までも我が窮乏に物贈れり。一七 これ贈物を求むるにあらず、唯なんぢらの益となる實の繁か

八 らんことを求むるなり。一八 我には凡ての物そなはりて餘りあり、既にエパフロデトより汝らの贈物を受けたれ

九 ば、飽き足れり。これは馨しき香にして神の享け給ふところ、喜びたまふ所の供物なり。一九 斯て、わが神は己の

二〇 富に隨ひ、キリスト・イエスによりて、汝らの凡ての窮乏を榮光のうちに補ひ給はん。二〇 願くは榮光世々限り

なく、我らの父なる神にあれ、アマメン。

ニ 汝らキリスト・イエスに在りて聖徒おのおのに安否を問へ、我と偕にある兄弟たち、汝らに安否を問ふ。

ニ 凡ての聖徒、殊にカイザルの家のもの、汝らに安否を問ふ。

ニ 願くは主イエス・キリストの恩恵、なんぢらの靈と偕に在らんことを。

ピリピ人への書 をはり

ル加一・二二
ヲ哥後一三・一二
徒九・一三を見よ
ワ羅一六・二〇を見よ
カ提後四・二二を見よ

一・一〇 或は「顔腫さなる事なく」

と譯す。

二・六 或は「神と等しき事を強ひ

執らんとせず」と譯す。

四・三 或は「眞實なるスンプゲよ」

と譯す。